

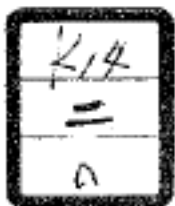
7

見解書の概要

—東京工科大学建設事業—

昭和59年2月16日

東京都公報別冊



1. 総括

1.1 事業者の氏名及び住所

学校法人 日本電子工学院 理事長 片柳 鴻
東京都大田区西蒲田五丁目23番22号

1.2 対象事業の名称

東京工科大学建設事業（建築物の建築の用に供する目的で行う土地の造成）

1.3 対象事業の内容の概略

本法人は、新たに技術系及び芸術系の二学部よりなる斬新な教育内容と施設を有する大学を設置するものである。

大学の規模及び学部内容については表1-1及び表1-2に示す通りである。

表1-1

位 置	東京都八王子市片倉町1,404-1 外
敷地面積	375,100 m ²
造成面積	241,600 m ²
建築物	研究棟：7階、8階、11階（地上49m） 講義棟：2階、3階、4階 工学部棟：4階 芸術学部棟・スタジオ：4階 図書館：5階（地上20m） 本部棟：1階、5階（地上24.5m） 福利厚生棟：5階（地上20m） 屋内運動場 自治会サークル棟：4階 ホール 美術館 エネルギープラント
屋外運動施設	400mトラック（兼サッカー場）・野球場 テニスコート

表1-2

学部	学科名
工学部	1. 土木工学科 2. 建築学科 3. 電気工学科 4. 電子工学科 5. 情報工学科 6. 医用電子工学科 7. 制御工学科
芸術学部	1. 絵画科 2. デザイン科 3. 放送芸術科

1.4 意見及び事業者の見解の概略

環境影響評価書案について、都民からの意見書が1通と関係地域が位置している八王子市長からの意見が提出された。また公聴会においては、公述人1名から意見が述べられた。これらの主な意見と事業者の見解の概略は、表1-3の通りである。

表1-3 主な意見と見解の概要

意見の概要	見解の概要
<p>大学祭やクラブ活動の騒音が、どこほどの程度反響して住民に迷惑をかけることになるのかを事前に調査研究してほしい。</p>	<p>周辺に影響を及ぼす音源としては陸上競技場のスタンドでの応援があげられるが、住宅地との距離が140mあることから、距離減衰を受け、更に残存樹林帯による減衰効果、地形による拡散が期待でき、また、音の発生回数が多くないことから、騒音の影響は少ないと考える。騒音を発生するクラブ活動は防音設備を備えた練習室を使用し、周辺には影響を与えない計画である。</p>

意見の概要	見解の概要
<p>提出された環境アセスの項目中、植物・動物について然るべき権威ある機関、または人が時間をかけて十分に調査したものは判じかねる。住民が日頃見聞している、生物指標として重要な鶯、螢、深山川トンボ、こじゅけい等については一切その記述がない。</p>	<p>植物・動物の調査は、八王子市及びその周辺で10年以上の調査、自然保護活動の実績のある研究者グループが1年間の本調査を行い、また、過去約10年間のデータを用いた。鶯、螢(ゲンジボタル)、こじゅけいについては環境影響評価書案に記述がある。ゲンジボタルは計画地の周辺で、過去に生息が記録されたものの、2年にわたる調査の間では生息が確認されなかった。ミヤマカワトンボは計画地及びその周辺では確認されなかった。</p>
<p>自然との調和に関しての建物の形状・色彩等については、十分研究してもらいたい。団地住民より見て目ざわりになると予想される巨大建物についてはできる限り低くするよう要望する。</p>	<p>大学の建物は住宅地からは100m以上の離隔距離をもち、計画地の外周部に残された丘の樹林を越えてその上部が現われる。建物は自然に近い茶色系のタイルの外壁を多くした。一番高い研究棟はより自然をまろみのある形とし、高さについては49.4mを49mに縮小した。住宅地に一番近い建物である体育館については周辺との調和を考慮して、屋根の形を変更し、高さ27mを22mに縮小した。</p>
<p>車による通学を規制したとしても、守れる筈はなく、団地内バイク事故、路上駐車、学内の木を切りたおしての駐車場の増設等が懸念される。また16号バイパスの完成後は、これに並行する道路として一層交通公害が増大し、その上に更に東京工科大学関係の車輛による団地内交通公害が起ると予想される。この点について検討を加えてほしい。</p>	<p>車による通学の規制は、十分に通学対策及び指導を行うことにより、可能であると考え。駐車台数は必要台数に100台分の余裕をみてあり、また、現在の計画以上の開発は今後認められず、木を切りたおしての駐車場の増設は考えられない。国道16号線については16号バイパスの完成により、交通量が減少することが予想され、団地内への影響も小さくなるものと思われる。なお、当大学関係の車輛には団地内の通過を規制し、指導を徹底させる考えである。</p>

2. 対象事業の目的及び内容

2.1 事業の目的

本法人は、過去30有余年にわたって運営してきた電子工学系の実学教育機関である日本工学院専門学校の運営経験を基礎として、こゝに新たに技術系及び芸術系二学部よりなる斬新な教育内容と施設を有する大学設置を計画するものである。

今後の技術社会の発展、とくに超LSIの進歩に対応して発展する電子工学、情報工学及び制御工学等の分野は未来に測り知れないほどの広がりを持つ技術的分野が期待されるが、これらの技術社会の要請に応える人材を育成するために必要な教育機関の条件、つまり優れた教授陣容の整備はもとより、とくに実験実習設備の量・質共々の完備については、現在の大学では類をみられない理想的なものとし、以ってそのユニークさの中で優れた人材育成の使命を完うすることを期している。

また同時に優れたキャンパス環境づくりに関しても、アメリカ等に見られるそれに比べて遙かに低水準にあるわが国の現状を超えた、また大学の街八王子のイメージアップにも十分に役立ち、且つ地域社会の環境向上に積極的役割を果たすことを計画している。

2.2 事業の内容

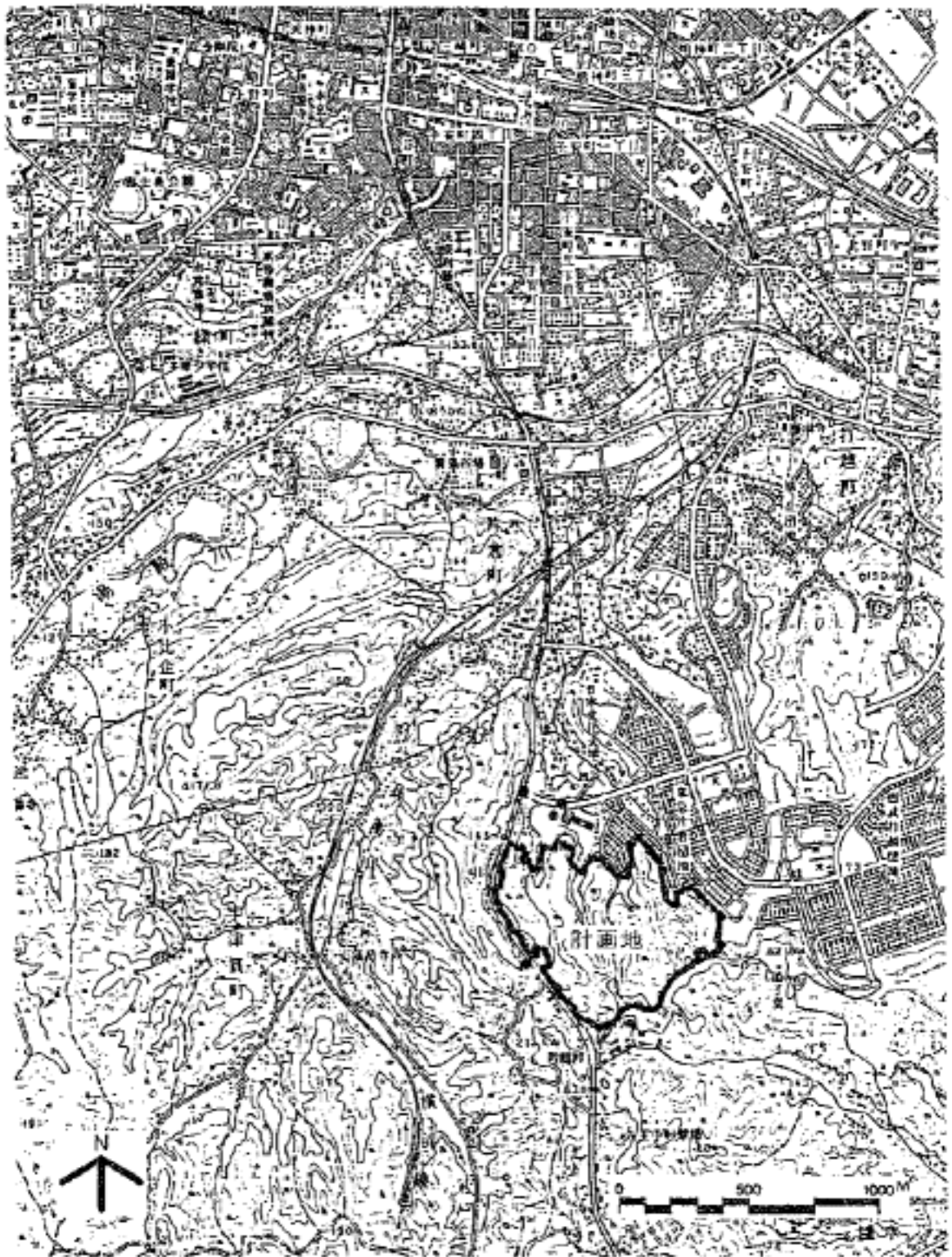
2.2.1 位置及び区域

対象事業は図2-1に示すように横浜線片倉駅より約1.4km徒歩約15分の距離にある。現在バス路線は国鉄八王子駅から京王バス片倉台行及び神奈川中央交通バス橋本駅行二系統があり、横浜線橋本駅から片倉台行で片倉高校入口下車約200m徒歩約2分の距離にある。また京王線北野駅より京王バス片倉台行で片倉台小学校前下車約1km徒歩10分の距離にある。

所在地 東京都八王子市片倉町1-404-1 外

図2-1

位置図



● バス停留所

2. 2. 2 事業計画の基本構想

開発計画予定地は八王子市域の南部に位置し町田市更に神奈川県相模原市に近接した緑豊かな丘陵地にあり、御殿山を頂点として八王子市街に下る複雑な起伏と北斜面によって構成されている。国鉄横浜線、中央線、私鉄京王線によって八王子市、横浜市さらに都心へと大量輸送システムの系をもちまた国道16号線、都道上館一日野線（川崎街道）、国道20号線（甲州街道）等によって自動車交通のネットワークにも恵まれ豊かな自然の背景とともに大学立地の要件を充分満たしていると考えられる。また計画予定地周辺では大規模宅地開発という首都圏の現代的かつ宿命的な社会状況及び自然環境の変化が足元まで進行しつつある。

このような状況を理解した上で大規模な区域を大学キャンパスとして総合的な土地利用計画を立案し可能な限り自然緑地を確保しまた緑地の復元を考慮して地域の自然環境の変質に対して憎止めとなると同時に計画地域においても自然と建築物のしかるべき共存と開かれた文化の拠点として地域社会へ貢献することをこの基本的骨子として考えたい所存である。

2. 2. 3 事業開始の時期

(1) 造成工事期間

昭和59年 6月 ～ 昭和60年 5月

(2) 建築工事期間

昭和59年1.1月 ～ 昭和61年 3月

(3) 開校予定

昭和61年 4月

2. 2. 4 事業の内容及び規模

(1) 計画地の敷地面積

375,100m²

(2) 計画学生数、教職員数、駐車台数等

計画学生数、教職員数、駐車台数については、表2—1（A、B、C、D）に示す通りである。

駐車については、周辺環境への影響を考慮し、学生の自動車通学を認めない方針のため、一日当たりの入車台数を200台と算定し、駐車台数を350台とした。

表 2-1 東京工科大学規模設定

A. 計画学生数

学部	学 科	人 数
工学部	土木工学科	120
	建築学科	120
	電気工学科	120
	電子工学科	240
	情報工学科	240
	医用電子工学科	120
	制御工学科	120
	計	1,080
芸術部	絵画科	120
	デザイン科	120
	放送芸術科	120
	計	360
入学定員数		1,440
計画学生数		5,760

B. 教職員数

名 称	工学部	芸術学部	一般教養	計
教 授	54	18	32	104
助 教 授	54	18	32	104
常 勤 講 師	18	54	32	104
非常勤講師	90	102	46	238
合 計	216	192	142	550

C. 職員数 200人

D. 駐車台数 350台

(3) 土地利用計画

土地利用については、計画学生数、教職員数に必要な施設とその面積及び配置等を考慮した施設計画、国道16号からのアプローチ、各施設間の連絡、人と車との分離等を考慮した道路、広場計画、環境の保全を考慮した緑地計画を立て、事

業計画の基本構想にふさわしいものとするべく計画した。(表2-2、図2-2)

表2-2 土地利用計画

名 称	面 積	割合 (%)
1. 建 築 物	44,200m ²	11.8%
2. 道 路	15,800m ²	4.2%
3. 広 場	37,500m ²	10.0%
4. 造 成 法 面	19,300m ²	5.1%
5. 屋外運動施設	36,600m ²	9.8%
6. 駐 車 場	8,000m ²	2.1%
7. 再 生 緑 地	60,800m ²	16.2%
8. 残 留 地 (緑地及び既存法面)	133,500m ²	35.6%
9. 池	19,400m ²	5.2%
合 計	375,100m ²	100.0%

(4) 施設計画

施設計画は、表2-3に示す通りである。このうち、1. 研究棟、2. 講義棟、3. 工学部棟、4. 芸術学部棟、5. 図書館、6. 本部棟の一部が文部省の大学設置基準対象面積となる。(設置基準では計画学生数、総定員5,760人に対し最低対象面積を64,924m²としている。)

表2-3

施設名称	面 積	備 考
1. 研究棟	35,600m ²	左記のうち 文部省の設置 基準対象面積
2. 講義棟	18,100m ²	
3. 工学部棟	10,600m ²	
4. 芸術学部棟 (スタジオ)	18,000m ²	
5. 図書館	7,800m ²	
6. 本部棟	11,300m ²	

7. 福利厚生棟	7,900㎡	
8. 屋内運動場	17,500㎡	
9. 自治会サークル棟	3,200㎡	
10. ホール (2000人収容)	5,700㎡	
11. 美術館	1,800㎡	
12. エネルギープラント (メイン+サブ)	4,600㎡	
計	142,100㎡	
13. 屋外運動施設 400mトラック (兼サッカー場) 野球場 (1面) テニスコート (7面)	36,600㎡	
合 計	178,700㎡	

图2-2 土地利用計画図

